

第30期目録委員会記録 No.20

第20回委員会

日時：2007年3月17日（土）14時～17時

場所：日本図書館協会5階会議室

出席：永田委員長，荻原，平田，古川，増井，渡邊

<事務局>磯部

[配付資料]

1. ALAによるRDA第I部案・パートA案へのコメントの要旨（完）（5ページ-A4，古川委員）
2. Coyle & HillmannによるRDA批判論説の抜粋訳（完）（10ページ-A4，古川委員）
3. futurelib | Framework（6ページ-A4，渡邊委員）
4. 第30期目録委員会記録No.19（2ページ-A4）

[報告・連絡事項]

1. IME-ICCについて

渡邊委員より、以下の報告があった。

- ・ IME-ICC第1～3回出席者の投票が行われた。
- ・ 7月頃に記録を出版する予定なので、日本語訳を作成しなくてはならない。

[検討事項]

1. RDA案へのコメントについて

配布資料1及び2に基づき、古川委員よりRDA案へのALAとCoyle及びHillmannからのコメントについて説明があり、以下のような意見が出された。

- ・ 過去の目録ファイルとの互換性を無視して規則を作るという意見には同意し難い部分はあるが、Googleブックサーチ等と比較すると、現在の形で目録を作成し続けるかどうかは再考すべきかもしれない。
- ・ LCが設置したWorking Group on the Future of Bibliographic Controlが予定している報告には注目しておくべきである。

2. futurelib | Frameworkについて

配布資料3に基づき、渡邊委員よりfuturelib | Frameworkについて説明があり、以下のような意見が出された。

- ・ コミュニティを横断することを考慮すると、図書館独自のcontextはなくなっていく。それは、RDA案でもareaがなくなりelementで構造を規定していることから判る。

3. NIIと国立国会図書館の目録規則に対する方針について

荻原委員よりNIIの、鈴木オブザーバーより国会図書館の目録規則に対する方針について

それぞれ説明があり、以下のような意見が出された。

- 目録のメタデータとリポジトリのメタデータの整合性が問題になっていくであろう。
- DCもドキュメントのメタデータを対象としているが、図書館のためのガイダンスや contextがないために図書館で扱うことが難しくなっている。
- MODSやDCなどを見える形で図書館に示す必要があり、それは過去のレガシーとも繋ぐものでなくてはいけない。

次回の委員会は、次期の委員構成を決定した後に開催する。

以上